



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	エコツーリズムと広域観光：JR五能線と白神山地の事例から
Author(s)	富岡, 耕太
Relation	北海道洞爺湖サミット記念環境総合展2008 環境関連フォーラム・セッション「環境と観光」グローバルとローカルの関係から持続可能な“エコ”な ツーリズムを考える. 平成20年6月21日. 札幌市
Issue Date	2008-06-21
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/38084
Type	lecture
File Information	Tomioka-2008Summit_handout.pdf, 配布資料



「エコツーリズムと広域観光～」JR五能線と白神山地の事例から」

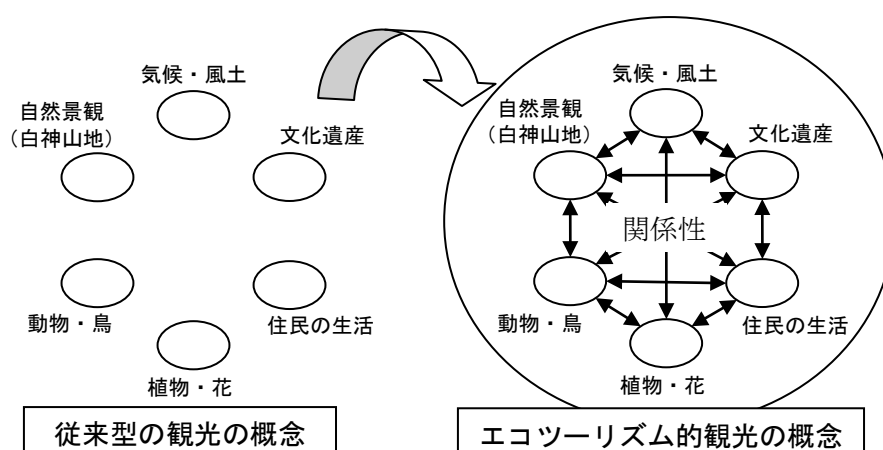
富岡 耕太

私は交通事業者の立場で「広域観光（複数の地域による観光振興）」の研究を行っている。鉄道や道路などの交通インフラが複数の観光地を結び、広域観光を振興する効果として、以下の点が挙げられる。

- ① 地域の特質が捉えやすくなり、観光客に対する訴求力を高められる
- ② 複数の観光地を結ぶことで、個々の魅力を相乗的に強調し、単独の観光地だけでは出しにくい新たな魅力を創ることができる
- ③ 観光客の選択肢が増えることで、滞在時間が拡大し、再訪欲求も向上する

単独では訴求効果が弱い観光地も、近隣観光地と関係性を持つことで魅力的な観光地域と成り得る。こうした広域観光の概念は、実はエコツーリズムと共通するものである。

小林英俊（2007年度「観光マーケティング戦略論演習」講義資料より引用）は「エコツーリズム＝エコロジー（生態系）＋ツーリズム」とし、「従来、単独であった観光資源の間に『関係性』を見出すことが『エコツーリズム的観光の概念』である」と論じ、概念のモデル化を行った（下図）。



（出所：小林英俊 2007年度「観光マーケティング戦略論演習」講義資料より引用）

つまり、エコツーリズムと広域観光に共通するのは地域全体の関係性に基づく概念である点である。例えばJR五能線は、数年前まで白神山地以外に観光資源が無いとされていた。ところが、沿線自治体が多様な観光メニューを次々と創出したことにより、観光資源同士が関係性を持ち、地域全体としての広域観光（及びエコツーリズム）を実現している。

このような観点から、地域全体の関係性を見せることがこれからの観光には求められてくる。今後は、地域を結ぶ交通事業者として地域の関係性をいかに構築するかという課題に取り組んでいきたい。

富岡 耕太（とみおか・こうた）

北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻 修士課程2年
明治学院大学経済学部卒、東日本旅客鉄道株式会社営業部所属